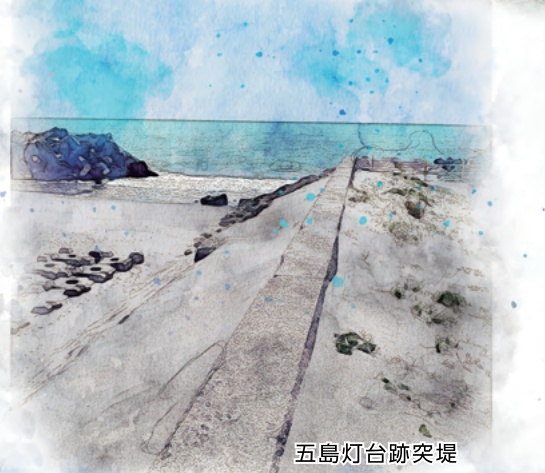


ごとう地区 五島地区

地域愛称マップ



五島(ごとう)の由来

五島の大地は、天竜川から運ばれた大量の土砂で出来た扇状地で、戦国時代以前は葦やガマが生い茂り、ところどころに島や池が点在し、人が住める環境ではなかった。開拓されたのは徳川家康が浜松城に入城(1570年)した頃である。西島・福島・江之島・松島・鶴島の五つの「島(土地)」からなるが、「五島」の名称は、国の町村制施行により明治22年(1889年)、河輪村との連合で五島村が発足してからである。明治29年(1896年)静岡県下郡廃合により、浜名郡五島村が誕生し、役場を西島に設置した。昭和26年(1951年)3月、五島村は新津村、河輪村と共に浜松市に編入された。

西島町(にしじまちょう)

天正2年(1574年)、大杉氏と池田氏が入植。五島で最初に芝切りとなった。文字どおり西島とは天竜川河口の「西の島」ということで、貴船神社を建立し開墾が始まった。中国の明から西島の浜に漂着した林五官は、徳川家康の厚い保護を受け運送業等で活躍した。西島は五島地区の行政の中心となり、明治17年(1884年)五島小学校も創立(平成23年廃校)された。

江之島町(えのしまちょう)

風光明媚で景色が美しい所から付けられた地名で、遠江国江之島の港として多くの船が入り出していた。引佐郡刑部村から移住して来た内山氏と、長上郡市野村からの集団入植した人々によって開墾された。江之島町に鎮座する白山神社の建立は元和元年(1615年)である。

福島町(ふくしまちょう)

町名の由来は不明であるが「福のある島であって欲しい」という願いが込められている。承応3年(1654年)、福島の開拓は豊田郡山田村(現在の袋井市)から移り住んだ山田氏によって始められた。明治8年(1875年)英国の貨物船ジェームズ・ペイトン号遭難で、救助にあたった村民たちの勇気ある行動は、「福島」の名を日本だけでなく世界にひろまることになった。

松島町(まつしまちょう)

寛永7年(1630年)、四本松村(現在の四本松町)の豪農鈴木門五左衛門が開発に当たった。さらに二男五左衛門(後に改名して初代松島五右衛門)は五右衛門新田と称して開発を進め、松島新田と改め、寛文7年(1667年)松島村と改名した。名の通り「松」の木々の生い茂る、ふくよかな土地である。

鶴島(つるしま)

江戸時代初期、松島の開拓と合わせて開墾されたが、洪水による堤防の決壊等で多額の費用がかさみ、開発は遅れた。松島五右衛門の尽力により貞享4年(1687年)鶴島村となり、松島村に編入された。由来は鶴が羽を休める穏やかな土地ということだろうが、現在は町名としては残っていない。

遠州浜(えんしゅうはま)の由来

昭和30年代半ばからの急激な経済成長に伴い、労働力不足を補うため、浜松市は対策として、勤労者の住宅づくりと厚生施設の整備を計画した。昭和40年(1965年)から始まった遠州浜団地造成は住宅・商店の建設を進め、昭和44年(1969年)遠州浜自治会を発足、昭和46年(1971年)に遠州浜小学校開校(平成23年廃校)。翌年には遠州浜一丁目から四丁目の住居表示も実施された。遠州浜の町名由来は定かではないが、遠州灘の「浜」ということであろうか。



令和5年度 地域力向上事業 地域愛称マップ(五島地区)

企画・発行 / 浜松市
(浜松市 中央区 五島協働センター)

- 御協力 / 五島歴史クラブ(地域活動団体)
五島地区自治会連合会
- ・西島町東自治会
 - ・西島町西自治会
 - ・松島町自治会
 - ・江之島町自治会
 - ・福島町自治会
 - ・遠州浜第一自治会
 - ・遠州浜第二自治会
 - ・遠州浜第三自治会
 - ・遠州浜第四自治会
 - ・遠州浜第五自治会

参考 /
ふるさと五島 愛称標識の由来(五島地区 愛称標識設置委員会)
愛称標識ガイドマップ(浜松市)
太陽と潮風 五島・遠州浜(浜松市立五島公民館 わが町文化誌編集委員会)
南区ガイドマップ(南区地域力向上事業)

デザイン・印刷 /
株式会社クリエイティブプロジェクト・ズーム